

自分らしさ

鴨宮中学校 三年 伊藤 綺音

最近、ニュースやネットなどで「多様性」という言葉を耳にすることが多くなった。多様性とは、男女平等やジェンダーレス、個人の尊重などの互いを認め合うことの大切さを示す言葉である。実際、私の身の回りでも「多様性の時代だし」といった声を聞くことが多くなった。その一方で「女なんだから」や「男なんだから」といった声もある。中でも私が特に気になっているのは、「みんながこうしているから自分もこうしよう」という考えを持つ人が多くいるように感じられることだ。口では多様性の、つまり自分とは異なる個性を持つ人たちを尊重することの大切さを語っているのに対し、実際には他人に合わせてばかりで、他人と異なるような個性や意見などはあまり表に出そうとしない。はたして、自分らしさとは何だろうか。

とは言っても、周りに合わせることのメリットもあると思う。変に悪目立ちすることもなく、周りに迷惑をかけることもない。何より、周りにどう思われているのか、嫌われていないかなどといったことを心配せずすむ。このように、周りに合わせる方が自分らしくいるよりも楽なこともあるだろう。しかし、私は楽だからと言って周りに合わせてばかりいるのは良くないと思う。

こんな経験はないだろうか。クラスの中に、よくからかわれている人がいたとする。自分は別にその人のことを何とも思っていないし、むしろからかおうなど思ってもいなかったが、周りの人がその人のことをからかっていたため、自分も思わず一緒になってからかってしまった。これこそ周りに合わせてしまうことの良くない例の一つである。この場合、たとえ自分がその人をからかっていることを良く思っていないかったとしても、「良くない」と口に出して言える人は少ないだろう。実際、もし私がこの場に居合わせたとしても、からかっている人たちにはつきりと「私はからかうのは良くないと思う」となど言える自信はない。これはやはり、自分の本当の思いをかくし、周りに合わせる方へ逃げようとしてしまうためだろう。

このように、楽だからと周りに合わせてばかりいたら、自分の気持ちや思いを押し殺し続けることになってしまう。そうなってしまうと、いつか自分自身を見失ってしまうのではないか。自分らしさが失われてしまうのではないか。これが、私が周りに合わせてばかりいることのデメリットだと思うことであり、課題だと思っていることである。

しかし、すべてを周りに合わせず、自分の思うがままに行動するのは他人に迷惑がかかる。そうなるともはや「自分らしさ」ではなく、「わがまま」になってしまう。これは、この問題の難しいところでもある。大きな行事やイベントなどの周りに合わせないと他人に迷惑がかかってしまうような場合と、逆に、話し合いなど自分の意見をかくしたり、周りに合わせたりする必要がある場合との使い分けが大切になってくる。家族や学校、部活などの様々な集団に属し、社会の一員として生きていく上で周りに合わせることも大切である。しかし、周りに合わせてばかりで、自分の本当の思いや意見を押し殺し続けていると、いつか自分自身さえも見失うのではないだろうか。その上で私は、他の意見も尊重しつつ自分の意見もしっかり持ち、それを伝えていきたい。また、たとえば他人と自分の意見が真逆だったとしても、決して変だと思わず、それが当たり前のことなのだと思うようにしたい。このように自分ができる小さなことを、一歩ずつやっていくことで、互いが自分らしさを尊重し合える社会に近づくことができると思う。